

えひめの次代を担う親づくり推進事業 (ライフデザイン事業) 報告

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけチーム」会合資料



コ ケ ハ
ソ ツ タ
ダ コ ラ
テ コン ク
とは とは とは
? ? ?

ハタラク、その先に これからのじぶんをイメージする。

～ボクが、ワタシが、今日、就職のその先を考えれば 人生はもっと楽しくなるかもしれない～

特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ
堀田 真奈

特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ

平成19年8月活動開始
平成21年9月法人登記



★ワークライフ・バランス＝仕事も生活も楽しもう。

「一歩踏み出すきっかけづくり」「人と企業のより良い関係創り」

正会員15名 賛助会員34名 法人会員15社

事業スタッフ3名 事務局 3名

- * セミナー事業（キャリアやワークライフに関する座談会、講座）
- * 人財育成・キャリア形成事業（女性活躍推進、人財採用、社員研修等）
- * イベントの企画・進行

★平成23年度～女性活躍推進に注力、講座やネットワークづくり

企業と人と地域をつなげる活動

① 人財育成の一環としての、 企業の女性活躍サポート

（従業員が課題解決していくプロジェクトを提案）



② 学生とともに、ライフデザインを考える！ （ケッコンも子育てもキャリアの一環）



③ ランチ会、勉強会、小さな場所を創る

（ネットワーク、情報提供の場、地域のエンパワメント）

④ 私たちから仕事を生み、働き方を変えて、成果を出そう！

（1日7時間フレックス、午前5時から午後10時のフレキシブルタイム）

「私たちがシーダー（種まく人）になろう」

えひめの次代を担う親づくり推進事業

★愛媛県少子化対策強化事業

(地域少子化対策重点推進交付金)



LIFE×DESIGN

★事業概要

「ライフデザインプロジェクト 愛媛県」 で検索！

少子化や未婚化・晩婚化が進んでおり、その要因としては、若い世代が、将来、家庭を持つこと、親になること等を意識する機会がないといった問題があり、多くの学生は、結婚や子どもを持ちたい希望があるものの、厳しい経済状況の中で、就職することが精一杯であり、就職の先にある「結婚」や「子育て」を意識できておらず、将来的なビジョンを明確に持っていない傾向が見られる。

このため、近い将来、親になる可能性のある大学生を対象に、自らのライフデザインを考え、結婚や子育て等をイメージすることができる取組みを推進する。

平成26年度より実施、単年度で3年目

この事業(LIFE×DESIGN)でやっていること

★ 各学校でのライフデザイン出張講座

県内3大学、2短期大学、1専門学校、1高校(8月現在)

★ 乳幼児・その親との触れあい交流

保育園・子育て支援ひろば・共働き夫婦の家庭訪問

★ 上記をWEBやSNSで配信、冊子の作成

できあがったものは、就職課やキャリアセンターへ

★ 学生スタッフとの協働を提案

- ・各大学や高校でのライフデザイン講座の進行や企画
 - ・子育て交流体験への学生集客、
 - ・この事業のアナウンス(SNS等にて)
 - ・冊子の内容企画、社会人の取材
- 自分自身の今後の人生設計のヒントにしつつ！

ハタラクとは？
ケッコンは？
コンダテとは？

LIFE
×
DESIGN



参画した学生スタッフ

★平成26年度 8名(男性2名、女性6名)
(3回生7名、4回生1名:愛媛大7名、松山大1名)

★平成27年度 8名(男性2名、女性6名)応募者13名。
(2回生2名、3回生5名、院生1名:愛媛大5名、松山大3名)

★平成28年度 13名(男性2名、女性11名)
(1回生5名、2回生4名、3回生4名:愛媛大6名、松山大1名、
松山東雲女子大2名、東雲短期大学4名:理系2名)

- ・ 県外もしくは松山市外出身者 自宅生は少ない。アルバイト、ボランティアと忙しい
- ・ 育った家庭に違和を持つ学生が多い
- ・ 専科以外の学生は、「現在在籍している大学・学部は、自分の希望通りでない」

男女共同参画推進に関する学生への意識啓発

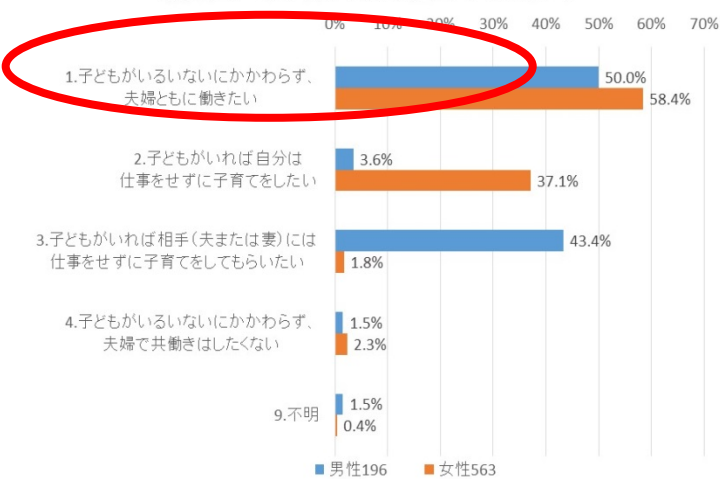
松山東雲短期大学教授 桐木陽子
愛媛大学女性未来育成センター准教授 郡司島宏美

大学生対象ライフデザインに関する意識調査

結果3: 家庭生活についての意識

共働き志向が過半数だが、妻が子育てをと考える者も多い

問7 夫婦で共働きをすることに対して、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



●男女ともに「子どもがいるいないにかかわらず夫婦ともに働きたい」と考えている人が最も多く、**女性が58.4%、男性が50.0%**。次に多いのが、男女ともに「子どもがいれば妻が仕事をせずに子育てをする」という選択肢で、女性が37.1%、男性が43.4%、男性がやや多い(問7)。

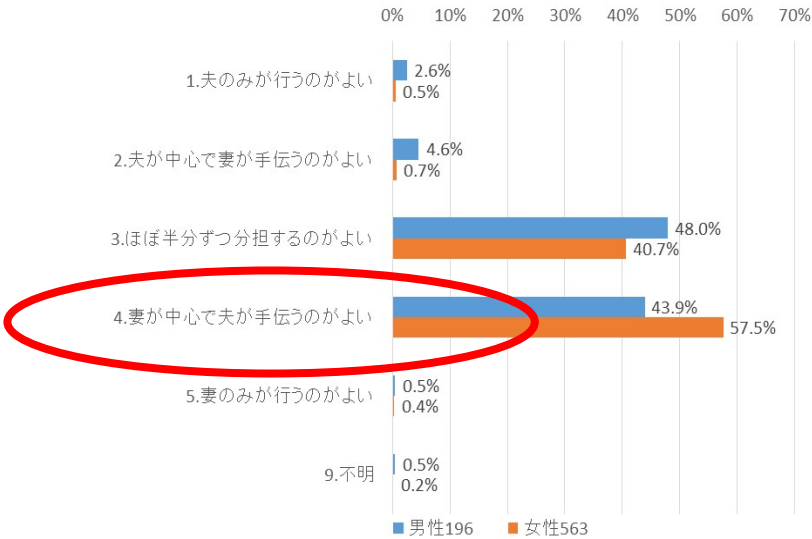
●家事・育児の分担でもっとも多いのは、**女性は「妻が中心で夫が手伝うのがよい」57.5%、男性は「ほぼ半分ずつ分担するのがよい」48%**。ただし男性の2位は「妻が中心で夫が手伝うのがよい」43.9%で、1位と2位の差はない(問9)。

大学生を対象としたライフデザイン調査

【実施時期】 2015年12月～2016年1月
【実施対象校と回収数】 788名

No.	大学	1.女性	2.男性	3.不明	合計
1	松山東雲女子大学	99		1	100
2	松山東雲短期大学	95		3	98
3	聖カタリナ大学	35	57	3	95
4	聖カタリナ短期大学	70	27	3	100
5	愛媛大学	58	47		105
6	松山大学	13	28	1	42
7	今治明德短期大学	41	27	14	82
8	愛媛県立医療技術大学	57	10	4	71
9	環太平洋大学短期大学部	95			95
計		563	196	29	788

問8 いずれ結婚した場合、夫と妻の家事・育児の分担について、あなたの希望に最も近いものを1つだけ選んでください。

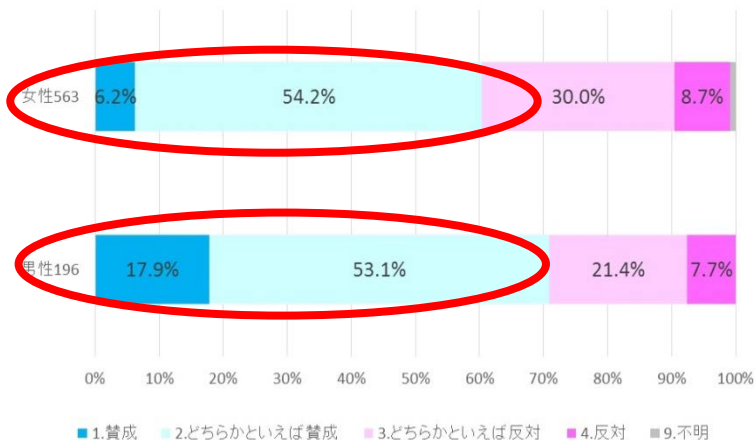


結果4: 男女共同参画社会に関する意識

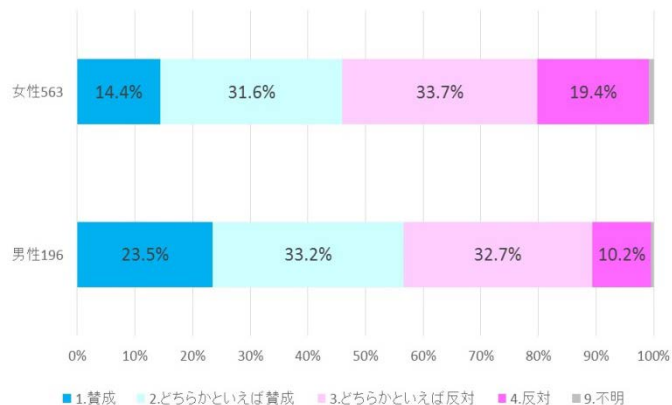
全国調査平均よりも多い性別役割分業意識肯定派

問11 あなたは次にあげる考え方についてどう思いますか。

①夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい



⑤男は男らしく、女は女らしく生きる方がよい



●性別役割分業意識肯定派は男性7割、女性6割。全国調査(内閣府による平成26年度女性の活躍推進に関する世論調査)での20～29歳の男女の肯定派約4割と比較して極めて多い(問11)。

結果5: 企業に求めること

管理職等の意識改革を求めている

問16.職場において必要なこと(%)

